

松岡静雄を語るモノたち

②『南溟の秘密』



『南溟の秘密』(表紙)



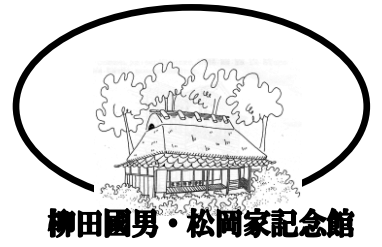
『南溟の秘密』(扉)

記念館に収蔵されている『南溟の秘密』は、昭和21年(1946)に再版されたもので、後年の『ミクロネシア民族誌』で補完された内容が補注で再集録されています。

松岡静雄は、海軍きつての言語学者でした。軍船に乗ってさまざまな地へ赴いた経験から、習得した言語は10を優に超えたと言われています。
『南溟の秘密』は大正5年(1916)に書かれた書籍です。「南溟」とは、南方に広がる大きな海という意味で、文中ではオセアニアの海洋部、特にミクロネシアの島々に生きる人々の伝統的航海術についての「秘密」に迫っています。
大正5年、静雄は39歳で海軍大佐に昇進しますが、それから2年後の大正7年(1918)には病を得て海軍を退役します。結果的に、『南溟の秘密』は静雄が海軍時代に手がけた希少な書籍のひとつとなりました。



福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原
1038の12
電話：0790-22-1000



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆
☆開館時間
9時～16時30分
(入館は16時まで)
☆休館日
月曜日、祝日の翌日
12月28日～1月4日
☆入館料
無料

今月の奉職履歴

明治34年(1901) 10月1日、静雄はドイツから購入された日本初の装甲巡洋艦「八雲」を降り、砲艦「摩耶」の航海長心得(心得とは代理の意味)に就任しました。
明治34年(1901) 10月1日、静雄はドイツから購入された日本初の装甲巡洋艦「八雲」を降り、砲艦「摩耶」の航海長心得(心得とは代理の意味)に就任しました。

名作著書紹介

故郷七十年を讀む



柳田國男の父・操は神道に傾倒し、國男の祖母にあたる小鶴の死後、思い切った家の仏壇を片づけたそうです。父の影響を受け、國男は操の一周忌にあたる一年祭の忌あけに、自らノリトを作成して父の死を悼みました。その後、妻方の甥が急逝したと

きには碑文を作成するなど、國男は自らの感情を表現する、あるいは癒す手段として、自然に文章を作っていたようです。
『故郷七十年』にはもうひとつ、大正2年(1913)に現埼玉県岩槻市の「慈恩寺」を整理合併した際に國男が村の人たちから頼まれて、由緒を書いた石碑について、「別格の碑文」であると記しています。
『故郷七十年』に記されている慈恩寺の碑文は、拓本を活字に直したものです。その拓本を採ったのは、後に民俗学者として『女の力』を著した鎌田久子でした。

第4回柳田國男検定表彰式!



8月6日(日)に、「第4回柳田國男検定」を実施しました。表彰式は9月9日(土)に行い、上級編最高得点賞である石井寛治さんには、副賞として「遠野への旅」をお贈りしました。

- 最高得点賞
- 【初級編】北澤 篤さん
- 【中級編】梶原基希さん
- 【上級編】石井寛治さん

また、学生受験者で初級編最高得点の上野隆之さん、中級編最高得点の岸本凌河さんには奨励賞を、上級編唯一の学生受験者である岡田楓太さんには特別賞をお贈りしました。



受賞者のみなさん